

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1176500872	
法人名	ALSOK介護株式会社	
事業所名	グループホーム みんなの家・清河寺	
所在地	埼玉県さいたま市西区清河寺1088-6	
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/jouhou-kouhyou/">https://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/jouhou-kouhyou/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和3年10月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様一人一人の個性を尊重し、引き出せる様に様々なレクリエーションを実施しています。  
 体調に合わせた個別の運動や体操をケアプランに取り入れ、自立した生活を継続して頂ける支援をしています。事業所理念として「一人一人に寄り添い安全・安心に生活できるホームを目指す」を職員一同が強く意識し、ご利用者様とのコミュニケーションを大切にし会話を多く持つように努めています。又、ご家族様の面会時には近況報告をしたり、毎月の知らせで情報の共有に努め、信頼を築けるように努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

JR川越線「西大宮」駅より東武バス「清河寺中央」バス停下車 徒歩10分の場所にある、3階建て、3ユニットのグループホームである。周りは住宅や公園があり、落ち着いた環境となっている。ガーデニングに力を入れており、家庭菜園コーナーでは野菜栽培にも取り組んでいる。運営面では、ケアプランに個別の運動や体操を取り入れ、自立した生活が長く続けられるよう、支援を行っている。理念に「一人一人に寄り添い安全・安心に生活できるホームを目指す」を掲げ、職員全員が理念の実践を意識しながら支援に取り組んでいる。入居者及び家族とのコミュニケーションを大切に、会話の機会を多く持つようにしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場会議において理念の共有を目指し、深めるよう努めています。 事業所理念を実行するためご利用様とのコミュニケーション作りや安全な環境保持に努めています。	管理者は職員会議の場で理念について振り返りを行い、確認の機会を持っている。職員も理念の共有に努め、ケアの場で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域との交流は断絶してしまっているのが現状です。 散歩等で地域の方に挨拶を交わしたり自治会への加入はしています。	自治会に入会して地域との関わりを大切にしているが、現在はコロナ禍の為、地域行事などが中止となっており、交流が出来ていない状況である。近所への散歩では近隣の方と出会った際にはあいさつを交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度はオレンジカフェを予定し、地域との繋がりがりや貢献に努める様に準備を進めていましたが、感染症の影響で実行出来ずになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を実行してまいりましたが、本年度も面会の中止に合わせ、地域包括・ご家族・市町村へは中止のお知らせに留まっています。	コロナ禍の為、運営推進会議は出来ていない。また、年2回の家族会も中止しており、通常開催の4月と12月に家族と運営推進会議のメンバー(包括支援センター担当者・地域の参加者)に運営状況などについてのお便りを送っている。	今後も新たな生活様式が続くことが想定され、それに沿った運営推進会議の形態が求められるため、家族やこれまでの参加者との繋がりが継続出来るよう工夫し、意見や要望が施設サービス向上に取り組みされていくこととなるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者様のご家族様や経済の状況に変化があった時には市町村担当者と情報の共有や協力を得る事でご利用者様がケアサービスを滞りなく継続し受ける事が出来る様に取り組むするなどしています。	市の担当者とは定期的に連絡を取り、情報の共有を行っており、協力を得たりしている。サービスの取り組みなどを伝えながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月で身体拘束廃止委員会を開催又、年2回の研修を実施しております。身体拘束のないケアに向けて常に啓発を行っております。	身体拘束廃止委員会を隔月に開催しており、年2回の研修も実施している。身体拘束者はいない。職員は拘束の具体的な行為について理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隔月で虐待防止委員会を開催しております。9月には虐待研修も実施しました。職員のストレスにも気を配り日頃からのコミュニケーション作りで相談しやすい人間関係を作るよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の権利が守られるように市町村担当者に相談したり、情報を得る事で制度を活用した支援を行う事が出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をかけ、重要事項や契約内容について説明を行っています。最後に質問も伺い理解・納得頂けたことを確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年に続き、家族会も中止しております。日常的に電話などでご家族様からご意見を伺う機会もあり、職場会議等で周知するようにしています。	家族との電話の際に意見を伺うようにしている。毎月のお便りで現在の様子(往診、歯科受診の結果、食事、入浴、排泄状況)を伝え、要望などを伺っており、その内容を職場会議などで話し合い、情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議・ユニット会議を実施し、職員間での意見交換を行っています。	管理者は毎月の職場会議やユニット会議で職員からの意見を聞いている。話し合いの上、シフト体制の変更などの改正を行った。また、個人面談を3月と9月に実施し、意見や要望などを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の特性を活かし、活躍できる環境作りに努めています。レクの得意な職員・物品管理の得意な職員など、やりがいをもって働けるよう役割作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の募集要項などを回覧し、参加できるようにしていますが、コロナ禍において参加できていないのが実情です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍においては思うように交流できていないのが実情です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前実態調査で知りえた事、入居後の観察から分かった事を職員間で情報共有し、ご利用様が安心して生活できる環境作りを一日でも早く整えられるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前実態調査ではご本人様よりもご家族様からの要望や困りごとを多く聞き取る事ができます。ご家族様の不安に対応できる情報を正しくお伝えできるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1ヶ月の暫定プランは入居前実態調査で知り得た情報にご家族様やご本人様の要望を組み取り、他のサービス利用も含め反映できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事を知り、食器拭きや洗濯物たたみ等の家事を手伝って頂いたり、園芸を手伝って頂き生活への参加を意識して頂けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を毎月「家便り」としてお届けしています。また変化のあった時には電話にてお知らせし対応を相談したりして関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	対面での面会は中止させていただいておりますが、ガラス越しでの面会や電話などは積極的にご本人様に繋ぐように心がけております。	現在、コロナ禍により、馴染みの場所などに出掛けることが出来ない状況であるが、ガラス越しの面会を行ったり、電話を積極的に活用し、本人への取次ぎの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が楽しくコミュニケーションがとれるように職員が仲介し、孤立しない環境作りを行っています。また席の配置にも考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、気軽に相談頂けるように退居時等にお声掛けしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	伝える事が可能なご利用者様からはお話を伺い、それが困難なご利用者様からは日頃の様子をカンファレンスにかけ、ケアの方向を見出すようにしています。	日頃の会話の中で要望などを伺い、言葉による意思疎通が困難な方についてはカンファレンスを行い情報を集め、チームで対応を検討し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査で知り得た情報を職員間で共有し、その人らしさを尊重した生活を送って頂ける様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送り・連絡ノートを活用し、ご利用者様の把握に努め、些細な変化も職員全員が情報共有できる様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様からサービスへの評価を頂き、毎月のカンファレンスでの職員からの意見を反映し介護計画に活かす様に努めています。	家族に意向確認書を書いて頂いた上で本人の意向を反映した介護計画を毎月のカンファレンスで話し合い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有するために生活記録のみでなく申し送りや連絡ノート・サービス実施表の記録を用いてご利用者様の把握に努め、カンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージはコロナ禍において利用を中断しておりますが訪問理美容やシニアセラピーなど可能な限りでご利用者様のニーズに対応できるよう調整を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域内の社寺や公園に散歩する機会が減少しておりますが、社協より敬老の祝い金を頂きそれを一部として皆さんとお祝いの会を行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皮膚科・循環器科など往診医以外の定期通院を行っているご利用者がいらっしゃいます。	協力医療機関の往診と訪問歯科が各々月2回、行われている。ほとんどの方が協力医療機関の往診を受けているが、これまでのかかりつけ医への受診も可能で通院は家族対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートを活用し、ご利用者お一人お一人の変化や状況を共有し、指示や支援を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医より診療情報提供書を出して頂いたり、入院先の医療連携室と連絡を取り合ったりする事で情報の交換や取得を行い関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期ケアについて説明を行います。重度化が予想される段階で改めて往診医や入院先医師からの意見・ご家族様の要望を尊重し、支援できるように取り組んでいます。	契約時、家族に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明している。重度化した場合やターミナルのあり方についてはその都度、医師より十分な説明を行いながら家族の要望に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、職員は熟知し備えてあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い内1回は消防機関による実地指導を受けるようにしています。また緊急時連絡網を備え近隣職員の協力を得られる準備を整えています。	年2回の防災訓練を行っており、今年度は5月に避難及び通報訓練を実施し、2回目は年内に消防署の立ち合い、夜間想定を織り込んだ訓練を予定している。自然災害に向けた水や食料の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室の小窓には目隠しをしプライバシーを損ねないようにしています。また、排泄介助の際などは特に留意し対応するようにしています。	居室の小窓はプライバシー保護のため、目隠しをしている。一人ひとりの人格を尊重し、排泄や入浴などの場面では言葉遣いに気を配り、プライバシーを損ねないよう配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時などには選択肢を準備し、自己決定できるように心がけています。又ベランダで喫茶店形式に飲み物を選んでいただくレクリエーションを実施することがあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活ペースを大切にし、入浴等もご利用者様の意思を伺い実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣類をご本人様の意向を確認しながら支援することがあります。起床時にはできるだけ髪をとかすなど身だしなみには留意しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お1人お1人の咀嚼や嚥下の状態に合わせて形状の対応をしています。献立を読んで頂いたり、「いただきます」「ご馳走様」の声掛けをして頂いたりしています。	一人ひとりの好みに配慮し、食事を楽しんで頂けるよう、個々の状態に合った対応をしている。ベランダで喫茶店を開き、外出気分を味わってみたり、おやつ作りではトッピングなどの簡単な手伝いをして頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立に沿った食事の提供で必要な栄養やカロリーの食事提供を行っています。毎回召し上がった量を記録し水分摂取量と共に確認し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月4回歯科衛生士による口腔ケアを受け、月2回歯科DRの診察を受けています。毎食後の口腔ケアは不足のある時には職員が手伝わせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子利用のご利用者様も立位の取れる方は時間を見計らってトイレにご案内させて頂きます。夜間のトイレ利用かポータブルトイレ使用かはカンファレンスで検討し決定しています。	本人の持っている機能を長く維持できるよう、トイレでの排泄介助を基本に取り組んでいる。夜間については、ポータブルトイレを使用したりして排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や体操への参加、水分補給を重視しています。また服薬の困難な方には服薬補助用オリゴ糖を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目標としているが、入浴日を固定せず、ご利用者様の様子を見ながら入浴へのお誘いをしています。	入浴日は固定せず、いつでも対応可能としている。週2回の入浴を基本とし、毎日2～3名の支援を行っており、状況により午前から午後、翌日に変更するなど、臨機応変に対応をしている。身体の状態に合わせ、リフト浴の対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースで過ごされたり、個室で休まれたり各自のペースで過ごして頂いています。職員は施設内の温度・湿度に注意し快適に過ごして頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬情報を用いて内服薬の内容・目的や期間を確認しています。症状や変化についてはその都度記録し主治医へ伝え指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識を持って頂けるように食器拭きや洗濯物たたみ等して頂いています。椅子ヨガや体操や合唱・散歩などで気分転換して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や中庭、ベランダでの外気浴を楽しんで頂くことがあります。	現在、コロナ禍により遠出が出来ないので、天気の良い日には近隣に散歩に出掛け、地域の方々といさづを交わしている。また、バラが咲いている中庭で外気浴やおやつを食べて楽しい時間を過ごしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との相談の上、最小限での小銭をお部屋に持っている方もおいでです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれているご利用者様がいらっしゃいます。時折ご家族様から着信があり会話を楽しまれています。また施設宛てにお電話下さるご家族様もおいでになり、スタッフルーム内で会話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物には季節感を重視し、温度や湿度を都度調整しながら、快適に過ごせるよう工夫しています。不快音や悪臭が無いよう注意しています。	エントランス、ロビーは季節の飾りつけが装飾され、採光が充分にあり、明るい雰囲気である。リビングはハロウィン飾りや季節に合った貼り絵などが飾られ、温度、湿度は適切に調整され、入居者がいつも居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様相互の相性なども考慮し、席の配置を工夫しています。共有スペースから離れた所にソファを置き一人になれる空間も作ってあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自身の作品や写真・植物を飾られたりと、ご家族様のご希望やご利用者の好みを尊重し、利用して頂いています。	安心して居心地よく過ごして頂くため、馴染みの家具類や写真、植物など、好みの物を持ち込まれ、その方らしい部屋作りとなっている。職員は毎日部屋の清掃を行い、清潔な環境が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線に物を置いたりせず、トイレの場所が解らない方には案内を表示するなどし、自立した生活の支援となる環境作りに努めています。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	昨年からのコロナ禍の状況において、運営推進会議や家族会が開催できていない。運営状況の報告書を作成し、ご家族様ならびに運営推進会議の外部参加者様に送付し共有を図らせていただいています。	新たな生活様式が続くことを想定し、ご家族様や運営推進会議の外部参加者様との繋がりが継続出来るよう工夫を施し、ご意見やご要望を活用しながら、ホームのサービス向上に取り組んでいきます。	感染状況を十分に踏まえながら、開催のタイミングについては都度検討していきます。繋がりが継続できるよう、開催中止とした場合には、お知らせに「ご意見・ご要望」欄を設け、対応させていただきます。又、外部参加者様に対しましては、ホーム長が直接出向き運営状況のご報告と意見交換をさせていただきます。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

